

岡山県感染症週報 2023年第27週 (7月3日～7月9日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です

◆2023年 第27週 (7/3～7/9) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第25週	5類感染症	梅毒	1名 (30代 女)
第26週	2類感染症	結核	1名 (80代 女)
	5類感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	1名 (幼児 男)
		梅毒	4名 (20代 男 1名、30代 男 1名、40代 男 1名、50代 男 1名)
第27週	2類感染症	結核	4名 (20代 女 1名、60代 男 1名、80代 男 1名・女 1名)
	3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	4名 (O157: 幼児 男 1名、20代 男 1名、30代 男 1名・女 1名)
	5類感染症	梅毒	2名 (20代 男 1名・女 1名)

食中毒予防の3原則
「清潔」・「迅速・冷却」・「加熱」



©岡山県「ももっち」

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ/COVID-19 定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

○新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、県全体で 618 名 (定点あたり 7.36 人) の報告がありました。

【第28週 速報】

○腸管出血性大腸菌感染症 5名 (O103: 小学生 女 1名、40代 男 1名、O157: 小学生 男 2名、O103 および O157: 小学生 男 1名) の発生がありました。

1. [新型コロナウイルス感染症 \(COVID-19\)](#) は、県全体で 618 名の報告があり、前週から増加しました (定点あたり 5.10 → 7.36 人)。詳しくは「[★新型コロナウイルス感染症 \(COVID-19\) 情報](#)」および岡山県感染症情報センターホームページ「[新型コロナウイルス感染症 \(COVID-19\) 情報](#)」をご覧ください。
2. [腸管出血性大腸菌感染症](#) は、2023 年第 27 週に 4 名の報告があり、2023 年の累計報告数は 34 名となりました (2022 年の同時期: 21 名)。岡山県は 6 月 23 日に「[腸管出血性大腸菌感染症注意報](#)」を県下全域に発令し、注意喚起を図っています。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ「[腸管出血性大腸菌感染症注意報発令中!](#)」をご覧ください。
3. [梅毒](#) は、2023 年第 27 週に 2 名の報告があり、2023 年の累計報告数は 139 名となりました (2022 年の同時期: 88 名)。2022 年の年間報告数は県内で 197 名、全国で 13,226 名 (2023 年 3 月 18 日時点) であり、1999 年の感染症法施行以降で最多でした。2023 年の全国の発生状況は、第 26 週までの累計報告数が 7,448 名 (2023 年 7 月 5 日時点) であり、最多であった 2022 年の同時期: 5,810 名を上回っています。今年は全国、県内共に、前年をさらに上回る勢いで報告があり、注意が必要です。また、2023 年の全国の先天梅毒の発生が、第 26 週までの累計報告数で 20 名となり、近年の年間報告数 20 名前後に既に並びました。詳しくは [コラム「梅毒 \(性感染症\) に気をつけましょう!](#)」をご覧ください。
4. [RS ウイルス感染症](#) は、県全体で 193 名の報告があり、前週から増加しました (定点あたり 1.85 → 3.57 人)。過去 10 年間の同時期と比較して、最も多かった 2021 年と同じような傾向で多い状況です。全国でも第 19 週以降増加が継続しています。この感染症は、大人は軽い風邪程度の症状で軽快しますが、乳幼児が感染すると重症化するおそれがあります。有効なワクチンはなく、症状に応じた対症療法が行われます。病気の特徴、予防法は次をご覧ください。
→ [『RS ウイルス感染症とは』 \(国立感染症研究所\)](#)、[『RS ウイルス感染症 Q&A』 \(一般向け\) \(厚生労働省\)](#)
5. [ヘルパンギーナ](#) は、県全体で 204 名の報告があり、前週とほぼ同数でした (定点あたり 3.96 → 3.78 人)。地域別では、岡山市 (5.57 人) および備中地域 (5.57 人)、倉敷市 (4.82 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。全国でも第 19 週以降増加が継続しており、過去 5 年間の同時期と比較してかなり多くなっています。この感染症は、夏かぜの一種であり、例年 7～8 月頃が流行のピークとなります。特異的な治療法はなく、症状に応じた対症療法が行われます。病気の特徴、予防法は次をご覧ください。
→ [『ヘルパンギーナとは』 \(国立感染症研究所\)](#)、[『わかりやすい感染症 Q & A』 \(一般向け\) \(厚生労働省\)](#)

流行の推移と発生状況（新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は別掲載）

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	▲	★	RSウイルス感染症	▲	★★★★★
咽頭結膜熱	▲	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	▲	★
感染性胃腸炎	▶	★★	水痘	▲	★
手足口病	▶	★	伝染性紅斑	▲	★
突発性発疹	▲	★	ヘルパンギーナ	▶	★★★★★
流行性耳下腺炎	▲	★	急性出血性結膜炎	▶	
流行性角結膜炎	▶	★	細菌性髄膜炎	▶	
無菌性髄膜炎	▲	★	マイコプラズマ肺炎	▶	
クラミジア肺炎	▶		感染性胃腸炎（ロタウイルス）	▶	

【記号の説明】 前週からの推移： ▲：大幅な増加 増加 ▲：増加 ▶：ほぼ増減なし 減少 ▲：減少 ▼：大幅な減少
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減
 発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。（発生数が多いことを示すものではありません。）
 空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

夏休みに海外へ渡航される方へ

海外には、日本国内に存在しない感染症が多くあります。
 海外の渡航先の感染症に対する予防対策が必要です。

出発前の注意

- ・感染症に対する正しい知識と予防に関する方法を身に付けましょう。
- ・渡航先の感染症の発生状況に関する最新の情報や注意事項を確認しましょう。
- ・これまで受けた予防接種について確認し、予防対策が不十分なものがあれば、予防接種を検討しましょう。

旅行中の注意

- ・生水、氷、カットフルーツ、サラダやラクダの生乳など、火が通っていないものを飲食することは避けましょう。
- ・肌の露出を少なくする、こまめに虫よけ剤を使用するなど蚊やダニに刺されないように注意しましょう。
- ・動物には、むやみに近づいたり、触らないようにしましょう。（狂犬病や鳥インフルエンザなどのウイルスをもっていることがあります。）
- ・帰宅後は、しっかり手洗いをしましょう。



©岡山県「ももっち・うらっち」

帰国した後に

- ・帰国時に発熱や下痢などの症状がある方は、空港または海港の検疫所に相談してください。
- ・帰国時に症状がなくても、その後体調が悪くなったときは、早めに医療機関を受診し、その際は必ず渡航先も伝えてください。

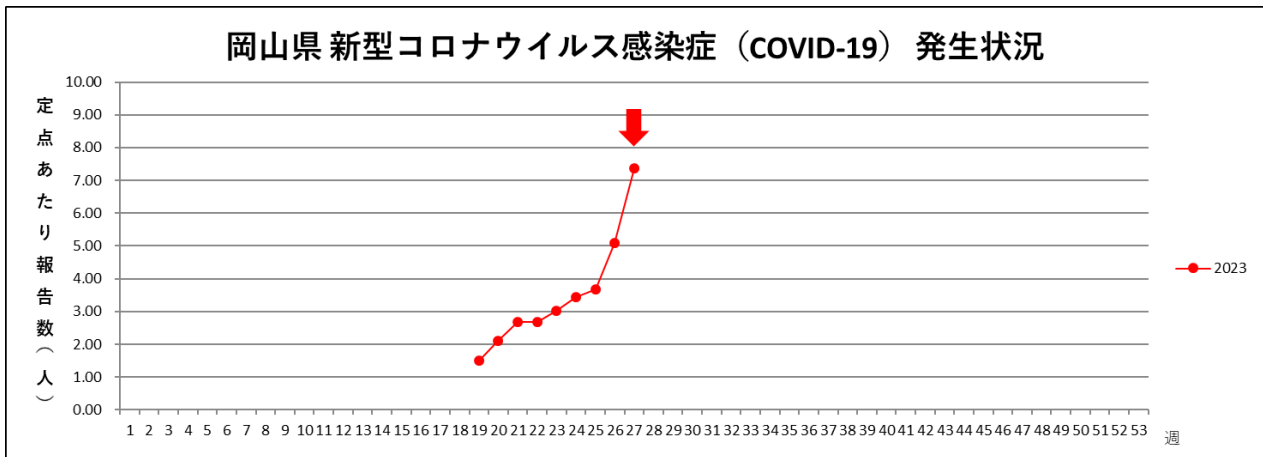
[海外へ渡航される皆様へ（厚生労働省）](#)

[海外へ渡航される皆さまへ！（厚生労働省検疫所 FORTH）](#)

☆新型コロナウイルス感染症（COVID-19）情報

岡山県の流行状況（第27週（7/3～7/9））

○新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、県全体で618名（定点あたり7.36人）の報告がありました（84定点医療機関報告）。



※ 2023年は定点把握対象へ移行した第19週から表示しています。

※ 全数把握時のデータは[こちら](#)

※ 2022年10月3日（2022年第40週）～2023年5月7日（2023年第18週）までの全数把握の患者数をもとに、2023年5月8日以降の定点医療機関からの報告患者数を抽出して集計した患者数の推移（参考値）はこちらをご覧ください。→ [全国](#)（厚生労働省HP）、[岡山県](#)（新型コロナウイルス感染症対策室HP）

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、県全体で618名の報告があり、前週から増加しました（定点あたり5.10→7.36人）。地域別では、備中地域（12.08人）、倉敷市（11.44人）、備北地域（10.83人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。年代別では、10代以下の年代で前週から大きく増加しました。

今後の全国の流行状況の見通しとして、過去の状況等をもとに、患者数の増加傾向が継続し、夏の間には一定の感染拡大が生じる可能性が指摘されています。

基本的な感染防止策（効果的な場面でのマスク着用、手洗い等の手指衛生、換気、3密（密閉・密集・密接）の回避、健康的な日常生活、ワクチン接種、体調不良時の備え）に留意し、自主的な判断により実施しましょう。

◆ゲノム解析の結果（全国の情報（岡山県の情報も含む））は[こちら](#)

[『SARS-CoV-2 変異株について』](#)（国立感染症研究所）

●新型コロナウイルス感染症（COVID-19）とは

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、世界中で感染が拡大している呼吸器症状などを呈する感染症です。咳やくしゃみ、会話などの際に排出される、ウイルスを含んだ飛沫・エアロゾル（飛沫より更に小さな水分を含んだ状態の粒子）を吸入することで感染すると考えられます。通常は感染者に近い距離（1m以内）で感染しますが、エアロゾルは1mを超えて空気中に留まりうることから、換気が不十分な環境では、感染が拡大するリスクがあります。

●症状

日本で流行の主流となっているオミクロン株は、潜伏期間が2～3日と短く、また、発症前からウイルスを排出し、感染源となることが分かっています。上気道で増殖しやすい特性から、従来株（デルタ株等）に比べ、鼻汁・頭痛・倦怠感・咽頭痛などの風邪様症状の頻度が増加している一方で、嗅覚・味覚障害の頻度の減少が報告されています。しかしながら、肺炎が進展し、重症化する例も少なからず認められます。特に高齢者や基礎疾患（慢性閉塞性肺疾患（COPD）、慢性腎臓病、糖尿病、高血圧、肥満など）のある方がり患すると、重症化する割合が高い傾向にあるとされており、注意が必要です。また、妊婦では妊娠後半期（21週以降）などに重症化する割合が高いことが分かっていますが、ワクチン接種が重症化を予防する可能性があると考えられています（[日本におけるCOVID-19妊婦の現状（日本産科婦人科学会、2022年6月7日付報告）](#)）。

なお、罹患後症状（いわゆる後遺症）については、以下をご覧ください。

- ・[罹患後症状のマネジメント・第2.0版（2022年10月14日発行）](#)
- ・[『新型コロナウイルス感染症罹患後も続く症状（後遺症）にお悩みの方へ』（岡山県ホームページ）](#)

●発生動向の把握方法について

これまでは全ての患者を把握する『全数』把握（2022年9月26日以降は簡略化）の方法でしたが、2023年5月8日（第19週）以降は、指定した医療機関（岡山県の定点医療機関数：84（内訳：小児科定点54、内科定点30））において1週間に診断した患者数を把握する『定点』把握の方法へ変更となりました。

基本的な感染症対策！
ワクチン接種も大切！

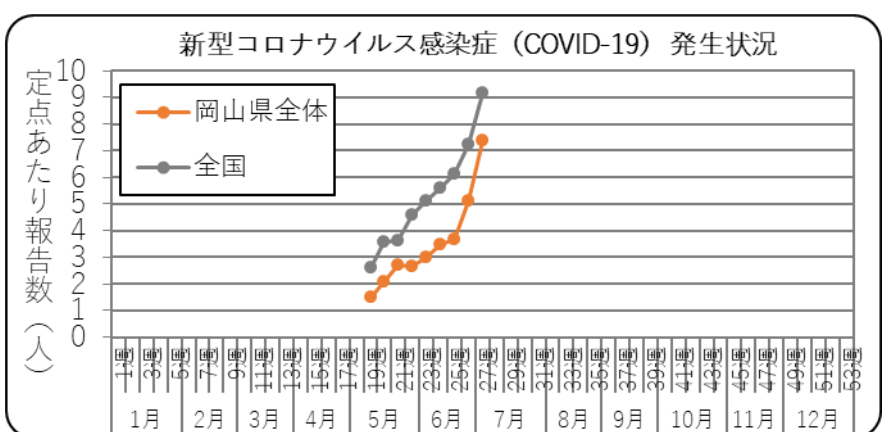
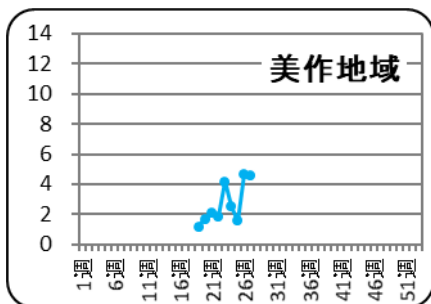
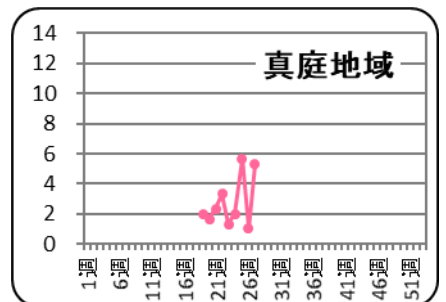
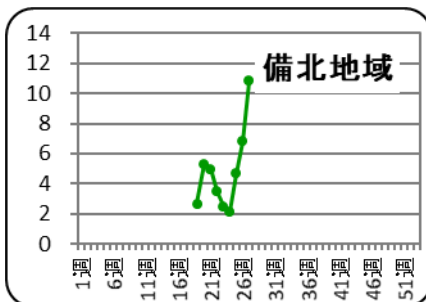
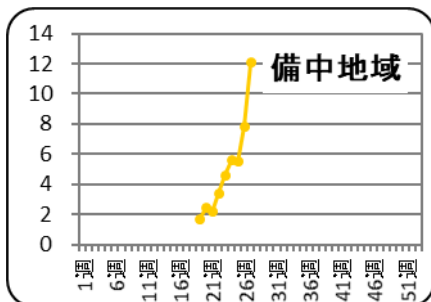
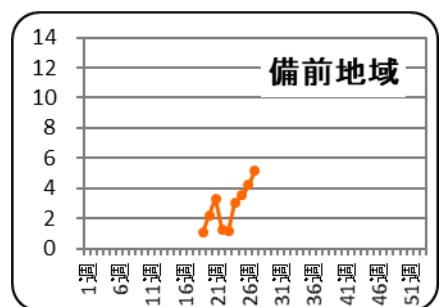
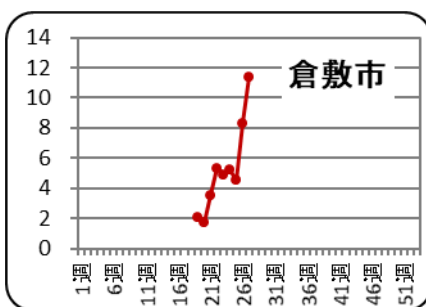
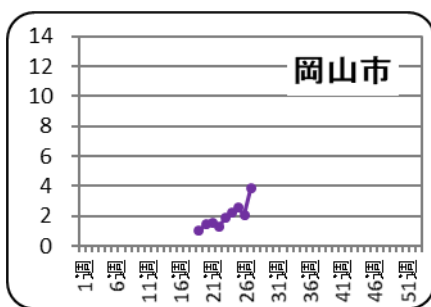


© 岡山県「ももっち」

1. 地域別発生状況

地域名	発生状況 (人)		推移	地域名	発生状況 (人)		推移
岡山県全体	患者数	618	↑	備 中	患者数	145	↑
	定点あたり	7.36			定点あたり	12.08	
岡山市	患者数	85	↑	備 北	患者数	65	↑
	定点あたり	3.86			定点あたり	10.83	
倉敷市	患者数	183	↑	真 庭	患者数	16	↑
	定点あたり	11.44			定点あたり	5.33	
備 前	患者数	78	↑	美 作	患者数	46	→
	定点あたり	5.20			定点あたり	4.60	

【記号の説明】 前週からの推移 ↑ : 大幅な増加 ↗ : 増加 → : ほぼ増減なし ↓ : 大幅な減少 ↘ : 減少
 大幅 : 前週比 100%以上の増減 増加・減少 : 前週比 10~100%未満の増減



○全国の発生状況

全国集計 2023 年第 27 週速報値 (2023 年 7 月 12 日時点) によると、全国の定点あたり報告数は 9.14 人となり、前週から増加しました。

[新型コロナウイルス感染症の国内発生状況等について \(厚生労働省\)](#)

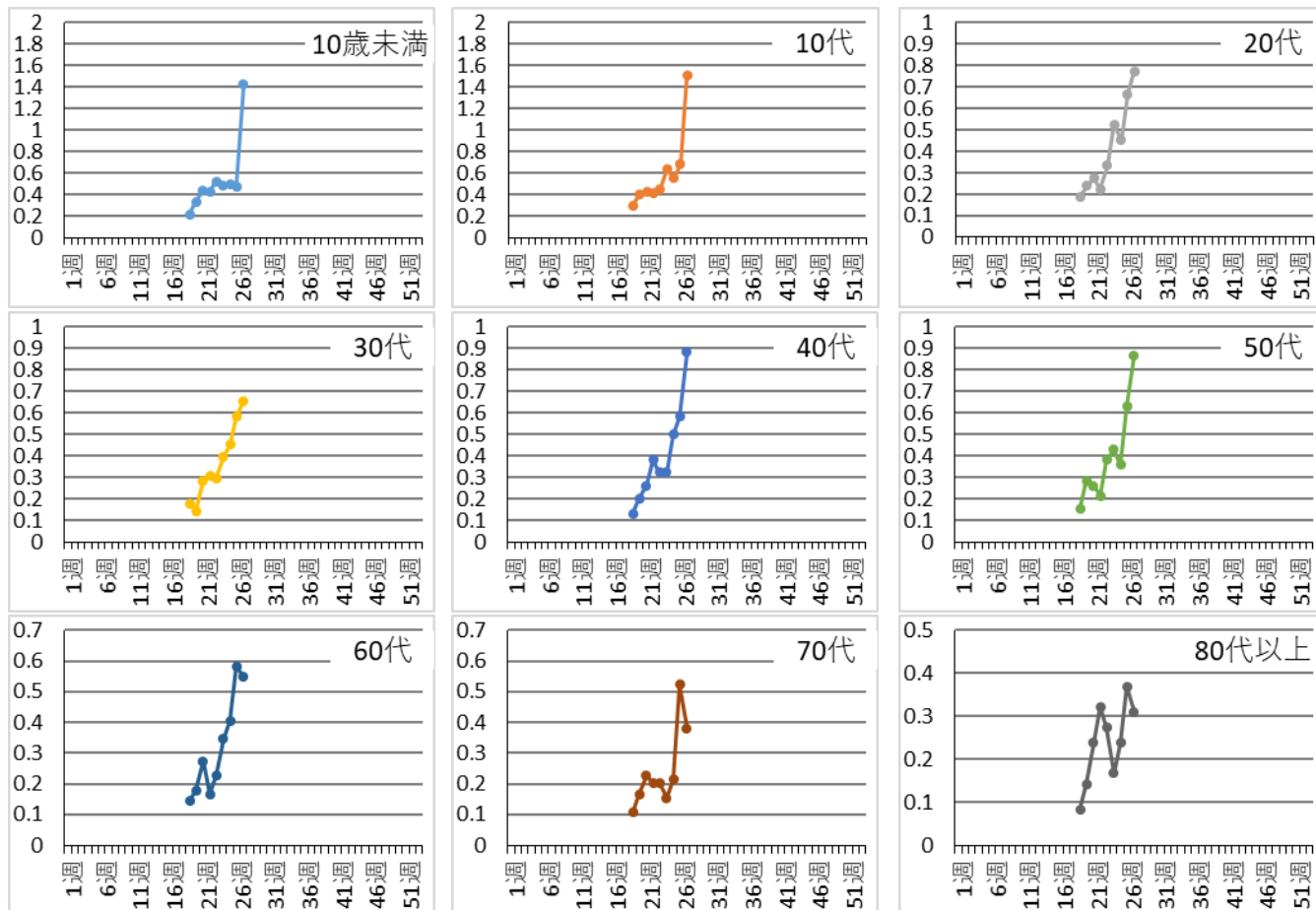
2. 年齢別発生状況

○第27週 (単位:人)

2023年第27週 (7月3日~7月9日) (単位:人)

合計	0-3歳	4-6歳	7-9歳	10-14歳	15-19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
618	43	25	52	86	41	65	55	74	73	46	32	26

○年齢階級別の定点あたり報告数の推移 (2023年第19週~)



📢 留意点: 年齢階級別の報告数の考え方について

定点医療機関は、小児科定点が内科定点に比べて多く選択されているため、報告数は小児に偏ります。一方で、年齢階級別の報告数により、経時的な流行全体の傾向(トレンド)と水準(レベル)の把握および年齢階級ごとにおける流行の傾向と水準を把握することができます。

3. 入院状況

2023年7月12日時点

	全入院者数	確保病床使用率	
			重症者用
	180人	15.3% 87床/ 567床	0.0% 0床/ 24床
(参考) 前週	135人	13.1% 74床/ 567床	4.2% 1床/ 24床
前々週	113人	11.1% 63床/ 567床	4.2% 1床/ 24床

＊子どもの予防接種を確実に！＊



厚生労働省リーフレットより

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行による影響から、子どもの定期予防接種率の低下が懸念されています。

接種期間内の方は、早めに予防接種を済ませましょう。

予防接種に関する疑問点などは、お住まいの市町村にお問い合わせください。

[遅らせないで！子どもの予防接種と乳幼児健診（厚生労働省）](#)
[予防接種スケジュール（国立感染症研究所）](#)

風しんの抗体検査（無料）を受けましょう！

<妊娠を希望する女性や同居する家族の方>

岡山県・岡山市・倉敷市では、先天性風しん症候群（CRS）※の予防を目的として、**風しんの無料抗体検査**を実施しています。

県内の抗体検査実施医療機関において、窓口で費用を負担することなく検査を受けることができます。検査の詳細は、下記のホームページ

岡山市・倉敷市以外 → [風しんの無料抗体検査が受けられます](#)（岡山県健康推進課）

岡山市 → [風しんの無料抗体検査](#)

倉敷市 → [風しん抗体検査について](#)

をご覧ください。

<1962(昭和37)年4月2日から1979(昭和54)年4月1日までに生まれた男性>

風しんの抗体保有率が低い1962年4月2日から1979年4月1日までに生まれた男性に対して、まずは**無料で抗体検査**を受け、**抗体価が低い場合は風しんの予防接種を無料で受けることができる**制度が、実施されています（**2025年3月31日まで**）。以下の医療機関で、無料の抗体検査が受けられます。

[市町村から届いたクーポン券を使用できる岡山県内の医療機関リスト](#)

※妊娠初期に風しんに罹患すると、出生児に先天性風しん症候群（CRS）と総称される障がいを引き起こすことがあります。先天性心疾患、難聴、白内障が3大症状です。

**3年間延長
されます！**

岡山県の2019年4月～2023年2月の風しんのクーポン使用実績(抗体検査)は、33.6%と未だに低い状況です！
CRSを防ぐためにも、必要な方は確実に予防接種を受けましょう！

[風しんの追加的対策について（厚生労働省）](#)
[風疹に関する疫学情報（国立感染症研究所）](#)
[“風疹ゼロ”プロジェクト（日本産婦人科医会）](#)



© 岡山県「ももっち・うらっち」

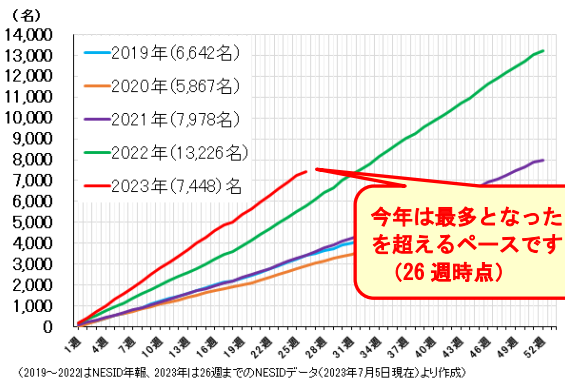
梅毒（性感染症）に気をつけましょう！

2022年の梅毒の患者報告数は、岡山県、全国共に1999年の感染症法施行以降で最多となりました。今年は前年をさらに上回る勢いで報告されています。岡山県は報告数が多く、人口100万あたりの報告数が、今年は上半期(第26週まで(2023.7.5 現在))までで全国7位となっています。(2021年:4位、2022年:8位)

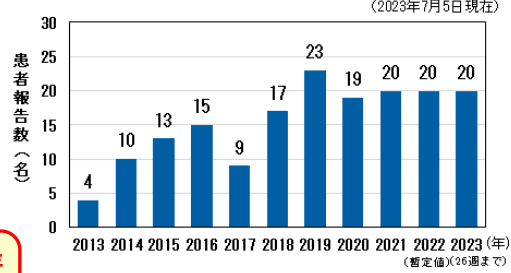
先天梅毒の発生などに特に注意が必要な状況です。

★梅毒等性感染症の症状・診断等の情報はこちら ⇒ [性感染症（国立感染症研究所）](#)

全国 年次別・報告週毎累積
(2019年～2023年) 2023年7月5日現在



全国 先天梅毒 発生状況



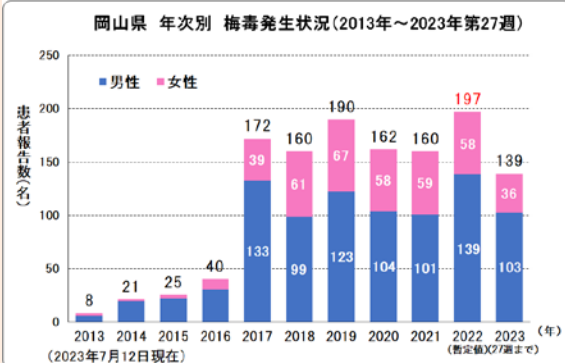
2023年(第26週まで)の人口100万あたり報告数
上位10位自治体

順位	自治体	患者報告数	人口100万あたり報告数
1	東京都	1,856	132.12
2	大阪府	1,027	116.21
3	宮崎県	96	89.76
4	広島県	213	76.08
5	福岡県	379	73.80
6	北海道	372	71.20
7	岡山県	132	69.90
8	熊本県	119	68.46
9	香川県	64	67.35
10	佐賀県	48	59.15

2023年7月5日現在

岡山県 年次別発生状況

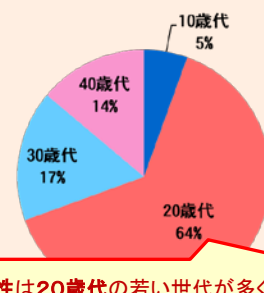
(2023年第27週まで) 2023年7月12日現在



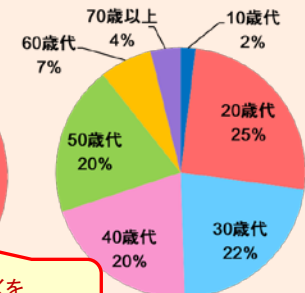
岡山県 性別・年齢階級別発生状況

(2023年第27週まで) 2023年7月12日現在

【女性】(n=36)



【男性】(n=103)



女性は20歳代の若い世代が多くを占めています！(全国も同じ傾向です。)



丘疹性梅毒疹(左)・梅毒性バラ疹(右)
日本性感染症学会 HP より

岡山県の保健所・支所では梅毒等の性感染症検査を無料・匿名で受けることができます！

* 岡山県の保健所(岡山市・倉敷市を除く)では、梅毒以外にも HIV・性器クラミジア・B 型肝炎・C 型肝炎の検査も同時に受けることができます。(岡山市・倉敷市の検査はこちら)

* 確実な検査結果を得るためには、感染機会のあった日から、3 か月経過後に検査することをおすすめします。

* 電話での事前予約が必要です。

* 新型コロナウイルスの影響で中止となる場合があります。

○検査の日時などはこちら ⇒ [検査について知りたい・検査を受けたい\(健康推進課\)](#)

○梅毒予防動画はこちら ⇒ [梅毒対策\(健康推進課\)](#)



梅毒トレポネーマ
(国立感染症研究所 HP より)

◆◆◆ 食中毒予防の3原則 ◆◆◆

岡山県は腸管出血性大腸菌感染症注意報発令中です！

➤ 「清潔」（菌をつけない）

- ・調理前、食事前、トイレ後には、石けんと流水で手をよく洗いましょう。
- ・まな板、ふきん等の調理器具は、十分に洗浄・消毒を行いましょう。
- ・焼肉をする時は、生の肉をつかむはしと食べるはしを使い分けましょう。

➤ 「迅速・冷却」（菌を増やさない）

- ・生鮮食品や調理後の食品は、できるだけ早く食べましょう。
- ・生鮮食品や調理後の食品は、10℃以下で保存しましょう。
（生食用鮮魚介類は、4℃以下で保存するよう努めましょう。）

➤ 「加熱」（菌をやっつける）

- ・加熱して食べる食品は、中心部まで十分に火を通しましょう。
- ・特に、食肉は中心部の色が完全に変わるまで十分に火を通し、生食は避けましょう（腸管出血性大腸菌は、75℃、1分間以上の加熱で死滅します）。



0157 の電子顕微鏡画像
（国立感染症研究所）

[食中毒予防の3原則（岡山県生活衛生課）](#)

[家庭でできる食中毒予防の6つのポイント（厚生労働省）](#)

[家庭でできる食中毒予防の6つのポイント（厚生労働省作成チラシ）](#)

保健所別報告患者数 2023年 27週(定点把握)

(2023/07/03~2023/07/09)

2023年7月13日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	36	0.43	8	0.36	6	0.38	3	0.20	18	1.50	1	0.17	-	-	-	-
RSウイルス感染症	193	3.57	68	4.86	71	6.45	11	1.10	33	4.71	3	0.75	-	-	7	1.17
咽頭結膜熱	11	0.20	2	0.14	1	0.09	1	0.10	3	0.43	1	0.25	1	0.50	2	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	30	0.56	11	0.79	6	0.55	4	0.40	3	0.43	1	0.25	4	2.00	1	0.17
感染性胃腸炎	224	4.15	60	4.29	18	1.64	67	6.70	23	3.29	11	2.75	2	1.00	43	7.17
水痘	1	0.02	-	-	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病	123	2.28	42	3.00	40	3.64	22	2.20	12	1.71	2	0.50	-	-	5	0.83
伝染性紅斑	1	0.02	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	12	0.22	7	0.50	1	0.09	2	0.20	1	0.14	-	-	-	-	1	0.17
ヘルパンギーナ	204	3.78	78	5.57	53	4.82	17	1.70	39	5.57	4	1.00	-	-	13	2.17
流行性耳下腺炎	2	0.04	1	0.07	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	0.25	1	0.20	2	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	0.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2023年 27週(発生レベル設定疾患)

(2023/07/03～2023/07/09)

2023年7月13日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	36	0.43	8	0.36	6	0.38	3	0.20	18	1.50	1	0.17	-	-	-	-
咽頭結膜熱	11	0.20	2	0.14	1	0.09	1	0.10	3	0.43	1	0.25	1	0.50	2	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	30	0.56	11	0.79	6	0.55	4	0.40	3	0.43	1	0.25	4	2.00	1	0.17
感染性胃腸炎	224	4.15	60	4.29	18	1.64	67	6.70	23	3.29	11	2.75	2	1.00	43	7.17
水痘	1	0.02	-	-	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病	123	2.28	42	3.00	40	3.64	22	2.20	12	1.71	2	0.50	-	-	5	0.83
伝染性紅斑	1	0.02	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	204	3.78	78	5.57	53	4.82	17	1.70	39	5.57	4	1.00	-	-	13	2.17
流行性耳下腺炎	2	0.04	1	0.07	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	0.25	1	0.20	2	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2023年 第27週 2023/07/03～2023/07/09)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
インフルエンザ	36	-	-	2	2	-	1	1	9	2	3	1	7	3	1	1	1	1	1	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	193	26	33	61	38	10	10	9	2	2	2	-	-	-
咽頭結膜熱	11	-	1	4	3	-	2	-	-	-	-	1	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	30	1	-	1	2	4	4	6	2	2	5	-	2	1
感染性胃腸炎	224	-	19	40	30	23	20	11	11	12	8	11	24	15
水痘	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
手足口病	123	2	9	58	15	16	8	10	2	1	1	-	1	-
伝染性紅斑	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	12	1	3	6	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	204	2	12	48	37	34	23	23	11	8	-	2	4	-
流行性耳下腺炎	2	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	-	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

保健所別

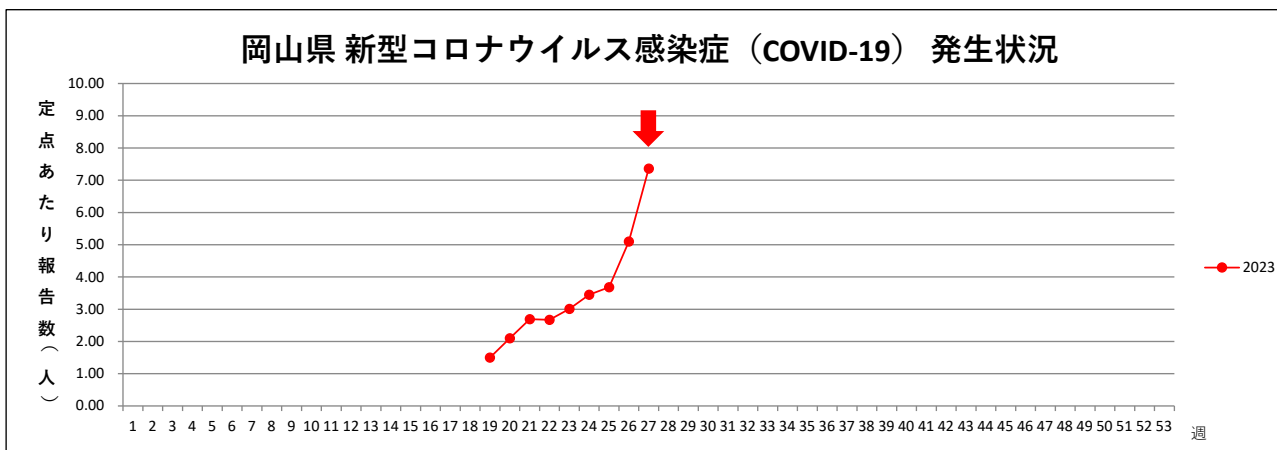
疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)	618	7.36	85	3.86	183	11.44	78	5.20	145	12.08	65	10.83	16	5.33	46	4.60

(- : 0 or 0.00)

年齢別

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)	618	6	5	12	10	10	8	16	1	18	15	19	86	41	65	55	74	73	46	32	26

(- : 0)



全数把握 感染症患者発生状況

2023年 27週

分類	疾病名	2023		2022	疾病名	2023			疾病名	2023		2022
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	4	114	246	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	4	34	66
	腸チフス	-	1	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	1	2	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	-	-
	エキノコックス症	-	-	-	エムポックス ※2	-	-	-	黄熱	-	-	-
	オウム病	-	1	1	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-
	キャサナル森林病	-	-	-	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-
	コクシジオイデス症	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	3	4
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	1	4
	デング熱	-	-	3	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本紅斑熱	-	2	9	日本脳炎	-	-	-
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	2
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	23	47
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	-	6	10	ウイルス性肝炎	-	3	1	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 ※2	-	10
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)		-	1	-	急性脳炎	-	6	10	クリプトスポリジウム症	-	-	-
クロイツフェルト・ヤコブ病		-	-	2	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	3	5	後天性免疫不全症候群	-	2	6
ジアルジア症		-	1	-	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	5	1	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-
侵襲性肺炎球菌感染症		-	12	22	水痘(入院例に限る。)	-	4	4	先天性風しん症候群	-	-	-
梅毒		2	139	197	播種性クリプトコックス症	-	-	3	破傷風	-	-	3
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	1	1	百日咳	-	15	17
風しん		-	-	1	麻しん	-	-	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-
※1	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	-	85,871	392,782		-	-	-		-	-	-

※1 新型インフルエンザ等感染症として2023年5月7日までに届出された患者数

※2 2023年5月26日付けで、以下の疾病の名称が変更になりました。

「サル痘」 → 「エムポックス」

「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症」 → 「カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症」

